

# 巻 頭 言

総合科学研究科副研究科長  
安藤 正昭先生



学生支援グループから飛翔の巻頭言を書くよう依頼されましたが、過去の文章を見るといづれも格調が高く、こんな文章はどんなに努力しても、私には無理であると諦めました。何を書こうかと悩んだ挙句、今年度の私の初体験と失敗談を紹介してお茶を濁すことにいたします。

平成十八年度は総合科学研究科が走り始めた年です。私も新入生と同じで、新しい研究科に夢と希望を持って参加しました。特に苦勞しているのが21世紀科学プロジェクトです。行きがかり上「文明と自然研究」(佐竹昭先生が責任者)に参加していますが、自分が何をすればよいのか、何を期待されているのか全く分らない状態で、これまで二回の巡検に参加させてもらいました。第一回目は「中国山地のたたらを調べる」として、島根県の吉田町を訪ね、元たたら師の桜井家を訪ねました。そこで見聞きしたことで、私の目が開かれたことと、強く記憶されたことを紹介します。

一．私の中で、江戸時代になぜ松江に松平家があったのか、不思議でたまらなかったのですが、徳

川幕府が鉄をとっても重要と考えていたのだと理解できました。

二、これは桜井家の当主が話されたことで記憶に残りました。桜井家の屋号は「可部屋」といいますが、これは祖先が福島政則に随って広島に来たことに起因しています。ご存知のように、その後徳川家康によって福島家が潰され、桜井家の一番苦しい時が来ます。このとき桜井家は広島可部にあり、この苦しい時を忘れるな、という家訓として「可部屋」という屋号を使っているということです。

帰りのバスの中で、このプロジェクトで私自身何が出来るのか考えてみました。瀬戸内の自然と環境と歴史を考えると、鉄の他に塩があり、塩からなら切り込んで行けると思い至りました。というのは四十年前、私の同級生(故人)が卒業研究で竹原のメダカを使っていたからです。このメダカは塩田に棲んでおり、高濃度の塩水に適応していました。あのメダカは今どうしているのだろうか、次の日曜日に竹原に出かけてみました。メダカの遺伝子を解析することから、塩田の歴史(数百年で遺

伝子が変わるか?)を知ることが出来るかもしれないと思ったからです。すると竹原の下水(とてもメダカが棲めるような環境ではない)にメダカのようなものが泳いでいました。早速採集して、研究室に持ち帰り調べてみると、一見メダカのように見えますがそれは「カダヤシ」でした。カダヤシは一九一六年に台湾から日本に移入され、卵胎生で、水草が無くても増えること、さらに生活廃水で水温が高くなっている、南部日本では下水にもいるということでした。今は研究室でカダヤシの赤ん坊が生まれるのを待っています。

第二回目は「石見銀山巡検」でした。石見銀山の歴史を勉強できましたが、それ以上に印象深かったのが、群言堂(群言は中国語で、皆でワイワイという意味だそうです)を主催しておられる女性社長の言動です。私から見ると、彼女は一種の芸術家と見えました。彼女は事業としてやっているということでしたが、それもまた私には新鮮に響きました。というのも、二回の巡検を通して、少しこのプロジェクトの意味が私なりに理解

できるようになってきたからです。一回目はたたらを使つての町おこし(吉田町)で、二回目は石見銀山が世界遺産に登録されることを受けての太田市の町おこしでした。現在の日本政府は都市部しか見ていないように思われますが、これから地方がどうやって生きてゆくのか、さらにはどうやって元気になるのかは、大事な21世紀の課題です。そのとき、観光だけでは弱すぎるというのが私の中であつたからです。群言堂は服飾デザイナーで、材料をすべて現地(石見)で調達し、自然というコンセプトを主張する集団で、何よりも雇用を創出しているのがすごいと感じました。一種の芸術家集団であれば、地方から何か発信できるのかもしれませんが。

翻つて、大学も法人化以降、弱肉強食の時代に入りました。これまでの広島大学の方針を見ると、既存の価値観の下で何とか生き残ろうとしているように思われます。広島大学は新しい価値観を打ち出す必要があるのではないのでしょうか?

アメリカだけが一人勝ちの世界はそのうち終わります。広島大学

の理念の一番目に掲げている「平和を希求する精神」とは、「弱者の目線でものを見る事が出来る」ということではないでしょうか?

このとき「地方」は大事なキーワードになります。地方が元気になるといふ動きは似ています。圧倒的な物量(資本)で現在の社会は一つの方向(勝ち組に有利な方向)に動いています。その中で、将来を予測し、現在の流れに逆らつて一つの価値観を打ち出すのは大変だと思いますが、それが大学の使命だと思います。

そして、中国・四国地方に位置する広島大学は、その期待に応える絶好の場所にいます。私自身は老い先短く、頭脳もかなり弱つてきていますので、若い学生諸君に期待するしかありません。一緒に巡検に行った学生の中にも、輝く学生は数名いました。総合科学研究所と総合科学部の学生のレベルはかなり高く、直面する21世紀の課題を解決する能力は十分にあると期待出来ます。